

提訴8周年年次活動報告会 この1年の活動報告



- 1.再稼働の動き
- 2.裁判闘争
- 3.法廷外の行動

2018年5月26日
玄海原発プルサーマルと全基をみんなで止める裁判の会

- 2月24日 玄海町議会同意
- 3月7日 玄海町長同意
- 4月9日 原子力防災大臣・知事面談
- 4月13日 佐賀県議会同意
- 4月19日 九電社長・知事面談
- 4月22日 経産大臣・知事面談



4月24日
山口祥義佐賀県知事
「安全性の確認と住民の理解が得られた」
「再稼働はやむを得ない」
再稼働同意

原発は 「やむを得ず」 動かす施設 ではありません!

※ 2017年4月24日、山口祥義 佐賀県知事 現状においてはやむを得ないと再稼働同意

知事同意後も問題噴出！

2017年

- 6月13日 玄海3・4号機再稼働差止仮処分不当決定
- 7月19日 規制委、火山灰100倍引き上げ
- 9月3・4日 原子力防災・避難訓練
- 9月11日 3号機使用前検査
- 11月30日 神戸製鋼所データ不正で再稼働2か月延期へ
- 12月13日 広島高裁、伊方原発差止決定

2018年

- 2月16日 3号機燃料装填
- 3月23日 3号機原子炉起動<再稼働>
- 3月30日 3号機配管穴あき蒸気漏れ事故
- 4月18日 3号機発電再開
- 4月21日 4号機燃料装填
- 5月3日 4号機一次冷却材ポンプ事故
- 5月16日 3号機営業運転開始

2. 裁判闘争

玄海3・4号機再稼働差止仮処分
2017.6.13 佐賀地裁不当決定



福岡高裁へ即時抗告 (2017.6.23)

→第1回審尋 (2018.6.8)

この1年の法廷 (佐賀地裁)

2017年

- 6月13日 = 仮処分不当決定
- 6月16日 = 行政
- 7月28日 = 全基
- 9月8日 = 全基
- 9月15日 = 行政
- 12月1日 = 行政・全基

2018年

- 3月23日 = 行政・全基

- ◆仮処分決定書交付
- ◆行政・全基口頭弁論
6日間で計8回
原告意見陳述 7人
(予定)
- 6月1日 = 行政・全基
- 9月28日 = 行政・全基



■ 私たちの弁護団



冠木克彦 弁護士



武村二三夫 弁護士



大橋さゆり 弁護士



小山英之 美浜の会代表
(裁判補佐人)



谷次郎 弁護士



中井雅人 弁護士

3. 法廷外の行動

3-1 要請行動

- 2017年6月以降・・・
- 知事要請 10回
- 九電要請・抗議 10回
(本店、発電所、佐賀支社)
- 政府交渉 3回
- 他自治体



佐賀県知事へ要請
九州電力へ要請

政府交渉 (全国の団体とともに)



①九電コンプライアンスカード不携帯 (7月)

九州電力グループ
コンプライアンス・カード
倫理的責任・法的責任

◆あなたや上司、同僚の判断や行動は…

- ① 自分の良心に反していませんか？
- ② 自分の家族や友人に胸を張って見せられますか？
- ③ 地域社会との信頼関係を損ないませんか？
- ④ 自社の理念・行動規範に沿っていますか？
- ⑤ 法令に違反するおそれはありませんか？

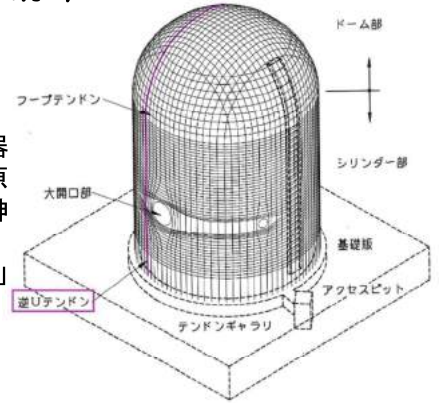
私たちは、社会との信頼を築き、コンプライアンスを推進します。

署名

「ウソをつかない」証しとして、九電社長が知事と約束した
「コンプライアンスカード常時携帯」
九電交渉時に不携帯発覚！ 九電は佐賀県に謝罪へ

③神戸製鋼・三菱マテリアル データ不正 (11月～)

溶接部材や格納容器
テンドンなど、玄海原
発の多くの部材で神
戸製鋼製品を使用。
「1年分の自主検査」
のみで幕引。



⑤ “安全神話”リーフレット撤回 (2月～)

玄海原子力発電所の安全性が
さらに向上しました。

当社は、「福島第一原子力発電所のような事故は決して起こさない」という
固い決意のもと、玄海原子力発電所3・4号機の安全性向上に向け、
取り組んでまいりました。

その結果、「世界でも最も厳しい水準にある新規制基準」に適合し、
安全対策の有効性が確認され、万が一の事故の際においても、
放射性物質の放出量は、福島第一原子力発電所事故時の約2,000分の1の
「4.5テラベクレル(1基あたり)」であることが確認されました。

(新規制基準の目標値:100テラベクレル/1基あたり)

九電交渉、自治体要請、説明会等で追及。
→唐津市長「どういうことか？」
→更田委員長「こういう言い方は一種の神話だ」
→知事も苦言 →九電は撤回

④玄海原発も阿蘇破局的噴火で立地不適 (12月～)



●火山学会と司法の総意
「破局的噴火の可能性が
小さいとはいえない」

- ◆九電「数十年前に前兆を
とらえることができる」
- ◆国「社会通念上、無視
してよい」

玄海原発30キロ圏に
火砕流が到達していた！

⑥3号機配管穴あき蒸気漏れ事故 (3月～)

原発蒸気漏れ 九電社長「復旧めど分らず」

九州電力
瓜生道明社長

再稼働については6～7年止めているので
何があるか分からないと言っていたのが

九電は原子炉を止めず、国は監督責任を放棄し、
県は形だけの「専門家意見聴取」で済ませ、
住民の不安置き去りのまま発電再開…

⑦4号機一次冷却材ポンプ事故 (5月～)

【1次冷却材ポンプ】
1次冷却材を循環させるためのポンプ

警告と
受け止めよ！

発電所の系統概略図

1次冷却材ポンプ構造図

放射性物質を含む一次系で、交換したばかりの新品で異常発生
部品交換だけでは済まされない。「原発のアキレス腱」
同じ部品を使っている3号機は、動かし続けている。

3-2 避難計画



屋内退避用
蛇腹式テント



東京新聞・2016年11月07日

「逃げんよ、逃げらるもんね、こげな道ば。
そこん丘に上がってみんね。
あっちからいつでん風の吹いてきようと」

